

第2章 全体構想

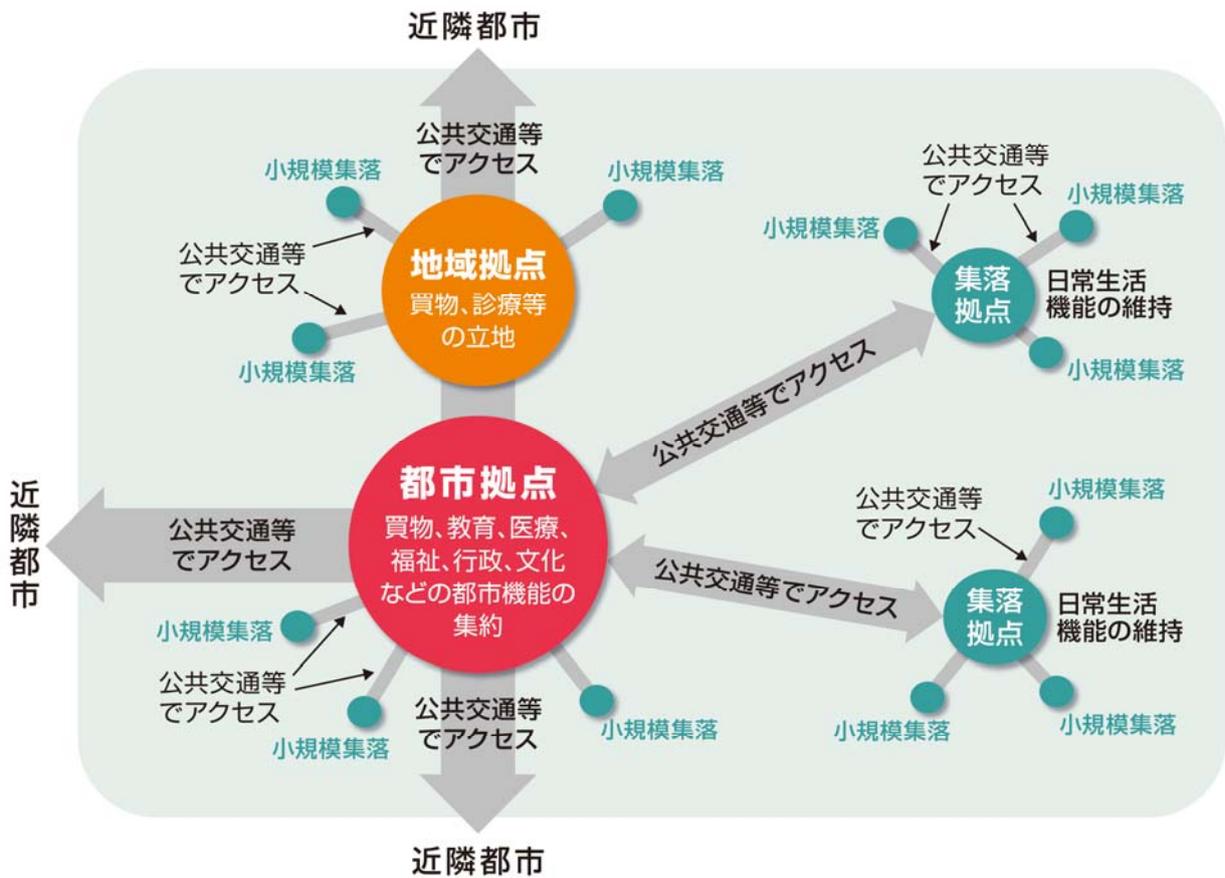
都市将来像の実現に向け、分野別の方針を示します。

1. 土地利用の方針

■土地利用に関する基本的な方針 ～コンパクトなまちづくりに向けて～

土地利用に関する基本的な考え方として、これまでは無計画な開発等により市街地が拡散していましたが、今後はこの市街地の拡大傾向を抑制し、市街地内での適正な土地利用を図ります。

- 既存市街地内での開発や宅地化を優先させ、まちなかの人口定着と商業、金融、医療、公共施設などの充実を図り、居住する上での利便性の向上を図ります。
- 市街地外の集落部においては、地域の中心となる集落拠点で地域住民の生活利便施設（日用品店舗、保育園・小学校、郵便局、医療施設など）の維持・確保により、地域の生活サービスの確保を図ります。
- 市街地と集落部を公共交通等で結び、車を運転しない集落内居住者が都市サービスを受けられる移動環境の整備を図ります。



(1) 住居系の土地利用

住宅地や集落地では居住環境の向上を目指し、若者や子育て世代の定住を促します。また、高齢者が住みやすい住環境の整備を図ります。

①市街地内住宅地

- 市街地内の住宅地は、買い物や医療などの日常サービス機能が充実し、利便性の高い魅力的な定住環境の形成を目指します。
- 無秩序に形成されてきた住宅地や市街化が進みつつある地区では、市街地の改善等により良好な住環境の形成を図ります。
- 若者や子育て世代の定住促進や、高齢者、ひとり親世帯が住みやすい公営住宅の改修や機能向上を図ります。
- 高齢者にも住みやすい居住環境形成のため、住宅のバリアフリー化を促進します。
- 豪雪地域の特性に配慮した克雪住宅の新築・増改築の普及を促進し、高齢世帯等の積雪時での生活利便性の確保を図ります。
- 空き家や空き施設は、治安や防災上の問題、積雪による倒壊など、周囲に大きな影響を及ぼすおそれがあります。このため、空き家バンクを活用する体制や情報の発信体制を整備し、再利用が可能な空き家については、市街地内の貴重な既存ストックとして活用を図ります。



市街地内の住宅地

②農業集落地

- 既存の農業集落は、今後とも人口流出を抑えて地域の活力を維持するため、各地域の中心となる集落拠点における生活利便施設(日用品店舗、保育園・小学校、郵便局、医療施設など)の維持確保を図ります。
- 集落拠点以外の集落は、集落拠点や市街地へのアクセス向上により、生活利便性の維持向上を図ります。
- 田園集落の景観を構成する古民家などについては、都市との交流資源としての活用を検討します。



農業集落の生活利便施設

(2) 産業系の土地利用

商業や工業、農業などの産業活動を行う地区は、地域産業の活性化に寄与する土地利用を図ります。

①駅周辺商業地

周辺の住宅地との連携、活力ある商業機能の集積により賑わいのある商業地の形成を目指します。

【六日町駅周辺】

- 多くの市民が集まる本市の中心拠点として、商業、行政、文化、教育などの都市機能が集積した賑わいのある中心市街地の形成を図ります。

【JR浦佐駅周辺】

- 本市唯一の新幹線停車駅の周辺商業地として、広域的な交通拠点としての利便性向上と商業機能の誘導を目指し、近隣に分布する基幹病院、教育機関、奥只見レクリエーション公園(浦佐地区)(以下、「八色の森公園」という)などの都市機能と連携した土地利用を図ります。



浦佐駅東口

【JR塩沢駅周辺】

- 牧之通りをはじめとした歴史的資源を活用し、回遊して楽しめる環境を整備して賑わいのある商業地の形成を図ります。
- 隣接する国道17号沿線商業地との連携により、地域住民の買物利便の維持充実を図ります。

【JR五日町駅・JR石打駅周辺】

- 地域住民が日常的に利用する商店が立地する、利便性の高い商業地の形成を図ります。
- JR石打駅周辺の上関フラワーロードまちなみモデル事業など、周囲の観光拠点との連携による観光客を受け入れるための商業環境の形成を図ります。

②その他の商業地

- 六日町IC周辺は、大型店舗が立地する既存の商業地として、利便性の向上を図ります。
- 国道17号沿線のサービス施設や郊外型のショッピングセンターが立地する地区は、周辺住民や道路利用者のための買物利便性の向上を図ります。
- 温泉施設などが立地する商業地は、来訪者がくつろぎ楽しめるような整備を図ります。



郊外型のショッピングセンター

③農業地

- 平野部の大部分を占める田園地帯は、全国的に有名な南魚沼産コシヒカリの生産基盤であるとともに、保水や景観形成など多面的な機能を担っているため、優良農地として維持保全します。
- 農地は、循環型社会に根差した環境保全型農業を推進するとともに、都市住民が農作業や自然体験などの交流活動を行う場などへの活用を図ります。

④工業地

- 産業面での活性化を図るため、広域高速交通網を活かした基盤整備を進め、既存工業団地での産業集積のための利便性の向上を目指します。
- 工業地については、景観や排水等、周辺環境に配慮した工業地の形成を図ります。



市内の工業団地

⑤大規模プロジェクト周辺

- CCRC構想として市外からアクティブシニアの移住を受け入れるため、市内に高齢者の新たな居住地（プラチナタウン）の形成を図ります。また、居住する高齢者が、市内にある国際大学や北里大学保健衛生専門学院などの教育機関、また近隣する魚沼基幹病院などの連携により、仕事や地域の活動に積極的に関わる環境の整備を図ります。
- 魚沼基幹病院周辺に居住、滞在、医療福祉、商業（店舗・飲食）等の機能を有する「メディカルタウン」を整備し、既存の医療福祉機能の支援・強化を図ります。
- 市役所大和庁舎に、海外のIT関連企業を集積した産業拠点（ITパーク）の形成を図ります。

CCRCとは（Continuing Care Retirement Communityの略）

リタイア後、まだ健康な間に入居し、介護が必要になっても移転することなく同じ敷地で、人生の最期までを豊かに暮らすための生活共同体のことです。米国では、高齢者の終の棲家として人気を集めています。

- ・健康時から介護時までを移転することなく同じ敷地で継続的なケアを受けられるコミュニティ
- ・全米に約2千か所、60万人が居住
- ・都市型、郊外型、地方型あらゆる立地で成立

（3）自然系の土地利用

本市は、四季折々の色彩に溢れ、また、恵みを与えてくれる山岳、清流などの豊かな自然環境があります。この財産を景観資源、観光資源として適正な保全、活用を図ります。

①山林

- 市域東部の越後三山只見国定公園、魚沼連峰県立自然公園及び上信越高原国立公園や西部の魚沼丘陵に代表される山林地域は、重要な環境資源として保全するとともに、景観資源としても保全します。



市域東部の山林地域

②レクリエーション施設用地

- 豊かな自然とその中に分布するスキー場等のレクリエーション施設は、他県を含む周辺の自治体と連携しながら、多くの人が交流する魅力的な土地利用の形成を図ります。
- 山林地域は山岳登山や点在するスキー場を含め海外からの来訪も視野に入れた広域から人々が交流する観光拠点として、優れた自然環境や景観に配慮した積極的な活用を目指します。
- 四季が明瞭な本市の特性を活かし、年間を通して多くの交流があるように春から秋にかけての観光資源の整備充実を図ります。



市内スキー場の賑わい

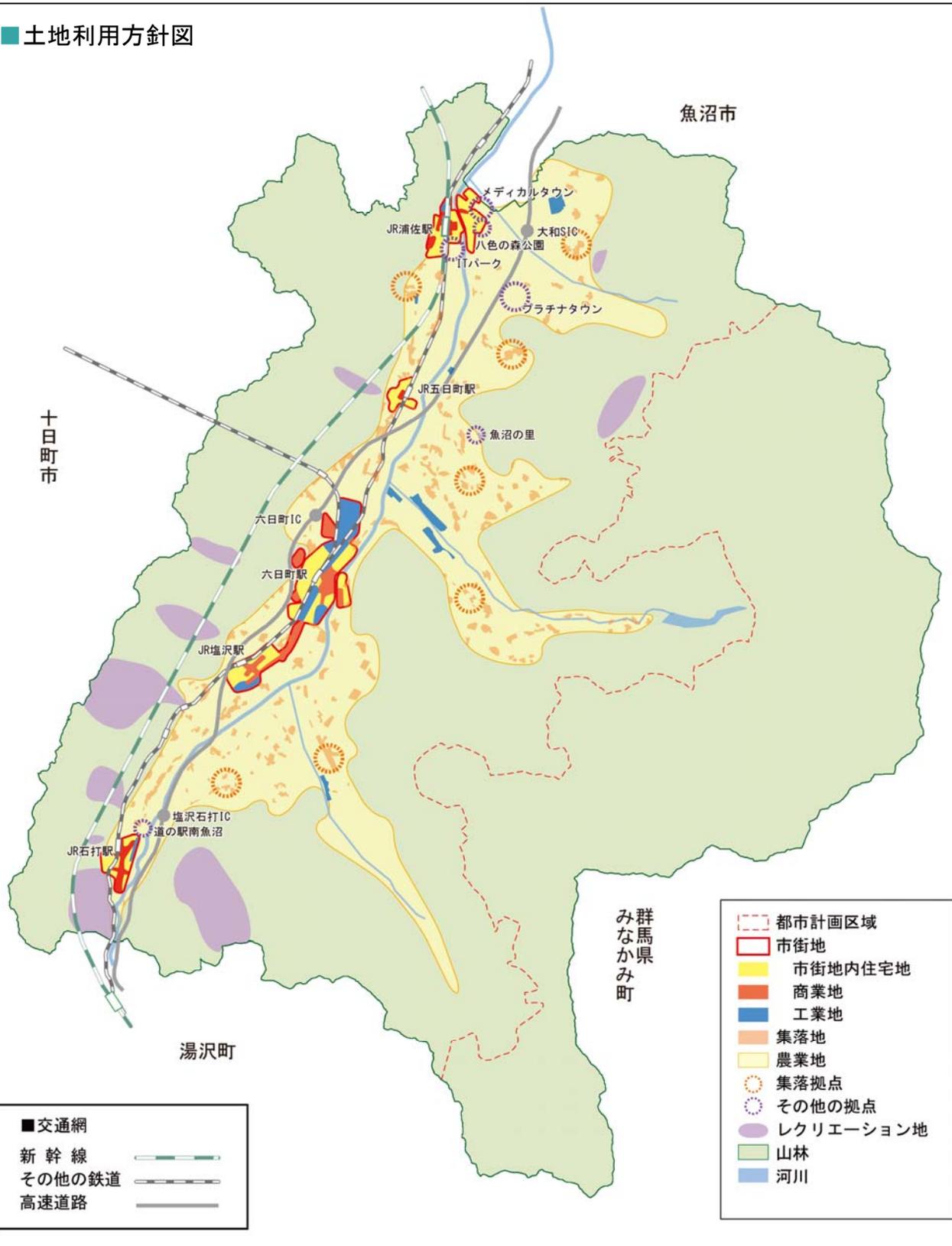
③河川

- 市街地や集落付近を流れる魚野川、水無川、三国川及び登川等の主要河川は、水辺環境を保全し、安全で快適な親水空間として活用を図ります。



魚野川

■土地利用方針図



2. 交通体系の方針

(1) 広域交通体系の整備

上越新幹線、JR上越線、ほくほく線、関越自動車道、上沼道等の高速交通体系の充実・強化と、高速交通体系と一体となった広域交流を支える交通基盤整備を目指します。

- 高速交通体系と一体となる国道17号六日町バイパス、浦佐バイパスの全線開通に向けた整備を働きかける等、広域的な交通ネットワークの充実を図ります。
- 十日町市や上越市方面との交流促進のため、上沼道の早期完成を関係機関に働きかけます。
- 新幹線の停車駅であるJR浦佐駅周辺及び六日町駅周辺は、在来線やバス等との乗り継ぎ機能の充実など、交通拠点としての利便性の向上を図ります。



六日町バイパス開通式

(2) 地域連携を支える交通基盤の整備

隣接都市や各拠点との交流・連携を強めていくための交通ネットワークの形成を目指します。

- 本市と近隣自治体とを結ぶ路線については、市民の日常的な利用や観光拠点を結ぶ交通基盤として、通行時の安全性や快適性の向上を働きかけます。
- 集落の生活環境を維持するために、都市拠点や地域拠点と集落拠点を結ぶ路線や公共交通の利便性の向上を働きかけます。
- JR上越線やほくほく線の鉄道駅は、周辺住民の日常の移動手段として活用します。また、周辺の観光施設と連携し、利便性の向上や利用の促進を図ります。



拠点間を結ぶネットワーク

(3) 市民生活を支える交通基盤の整備

- 市街地内での街路網の整備とともに、集落などでは生活道路の維持充実により、市民の生活を支える交通基盤づくりを図ります。
- 車を運転しない高齢者や学生などの交通手段を確保するため、市民バスをはじめとする公共交通の効率的な運行を図ります。



市民バス

(4) 安全安心で快適な道路空間整備

- 歩行者の安全を確保するための歩道設置のほか、ガードレールや防護柵、街灯等の交通安全施設の整備を図ります。
- 市民の健康増進のため、ウォーキングロード等の自動車走行以外の道路の整備を検討します。また、まちなかでの歩道のネットワーク化を図ります。
- 多くの人が集まる市街地や公共施設周辺では、歩道の段差の解消、スロープの設置、十分な幅員の確保など、使いやすく、安全で快適な空間づくりを図ります。
- 冬期間の積雪時でも道路交通環境を維持し、また、自動車のみならず歩行者の安全性の確保も図ります。



市街地内の歩道（ガードレール）

3. 都市施設の方針

都市施設の整備については、今後の人口減少や超高齢社会の進行、また厳しい財政状況を念頭におき、周辺都市との連携による効率的な整備を目指します。また、住民との協力体制による都市施設の維持管理を検討します。

(1) 公園

- 大原運動公園は広域からの利用も視野に入れ、総合型の運動公園としてさらなる整備を図ります。
- 浦佐地区にある八色の森公園は、多くの人が訪れる観光交流拠点として、機能の維持を働きかけます。
- 既存の住区基幹公園や農村公園など身近な憩いの場となる公園の機能充実と、住民が維持管理に参加できる仕組みを検討します。
- 冬期降雪時でも子どもたちが安心して遊ぶことができる屋内空間の整備を検討します。



八色の森公園

(2) 下水道

- 下水道事業整備後は未接続世帯への接続を促進し、公共水域の水質保全を図ります。
- 下水道の整備が困難な地域は、浄化槽の整備を進め、水質の保全を図ります。
- 老朽化が進む下水道施設は、長寿命化を含めた効率的な維持管理を図ります。
- 今後の施設整備の効率化や水域の環境保全の観点から、農業集落排水施設の公共下水道への統合を図ります。



下水道工事

(3) 河川

- 河川の治水安全度の向上を図るため、必要に応じた河川整備を関係機関に働きかけます。
- 魚野川や支流である水無川、三国川、十二沢川、登川など市街地や集落付近の身近な河川においては、自然環境の保全に配慮しながら安心して水と親しめるような空間整備を図ります。

(4) その他の都市施設

- ごみ処理施設の延命化と新たな施設の適地を検討します。
- 今後の人口減少や財政状況を考慮し、公共施設の再編・統合を検討するとともに、本市だけでなく周辺自治体との連携により相互に不足する機能を補完するなど効率的な運用を検討します。



河川整備

4. 都市景観・環境形成の方針

南魚沼市の最大の資源である豊かな自然環境並びに自然と調和した暮らしや文化を保全・継承し、環境と調和した美しいまちを目指します。

(1) 景観形成

①自然を活かした景観の保全

- 本市域は、東側の越後三山只見国定公園、魚沼連峰県立自然公園、上信越高原国立公園、西側の魚沼丘陵等の山々に囲まれ、豊かな自然景観を形成しています。これら山々や森林と魚野川をはじめとした河川の四季の変化は、次世代に残すべき重要な景観であることから、保全や周囲の修景を図ります。
- 市街地を取り囲む田園や集落の風景も地域を特徴づける原風景となっていることから、これらの景観保全を図ります。
- 本市は国内でも有数の豪雪地帯であり、市街地・自然地を問わず、冬の雪景色には特別の風情を感じさせます。この雪国独自の特徴的景観を冬期観光の貴重な資源として活用を図ります。



田植え後の田園と八海山



冬の魚野川

②歴史や風土を活かした都市景観づくり

- 本市には、三国街道の宿場町を再現した牧之通りや、毘沙門堂の裸押合大祭、坂戸城跡と周辺の温泉街など、特有の歴史文化資源としての景観が残されています。今後は、市民の景観に対する意識の醸成を図り、まちの魅力を活かす景観づくりを目指します。
- 市内に分布するスキー場は、冬期の交流資源とともに、雪資源を活用した本市の貴重な賑わい景観の創出の場として維持保全を図ります。
- 国の重要無形文化財の条件となる「越後上布の雪さらし」の風景など、地域の風土を活かした特徴ある景観の保全を図ります。



雪さらしの様子

(2) 環境形成

①自然環境の保全

- 貴重な資源である自然環境を保全し、自然と調和したまちづくりのため環境基本計画に基づき、循環型社会の実現を目指します。
- 森林は、生態系の保護やCO₂の吸収、水源涵養など多面的な機能を有することから、森林環境の保全・活用を図ります。
- 多様な生物の生育環境となっている農地についても保全を図ります。

②CO₂排出量の削減(地球温暖化防止対策の推進)

- 市街地内の既存の都市基盤を有効活用することにより、低炭素で効率的な都市活動が行われるコンパクトなまちづくりを目指します。
- 既存の鉄道やバスの利便性の向上や利用促進を図り、CO₂排出量の多い自動車から公共交通への利用を促進します。
- 市街地等での交通渋滞によるCO₂排出量を抑えるため、幹線道路のバイパス整備を働きかけます。



降雪期の国道 17 号の渋滞

③緑化・省エネの推進

- 事業所敷地内や住宅地の緑化など、民間主体のうるおいある都市緑化を促進します。
- 公共施設や道路沿道の緑化とともに、自然エネルギーの導入や建築物の省エネ改修を実施し、環境に優しいまちを目指します。
- 雪氷冷熱、小水力、バイオマスなど、本市の特性を活かした再生可能エネルギーの利用を促進し、環境負荷の少ないまちを目指します。

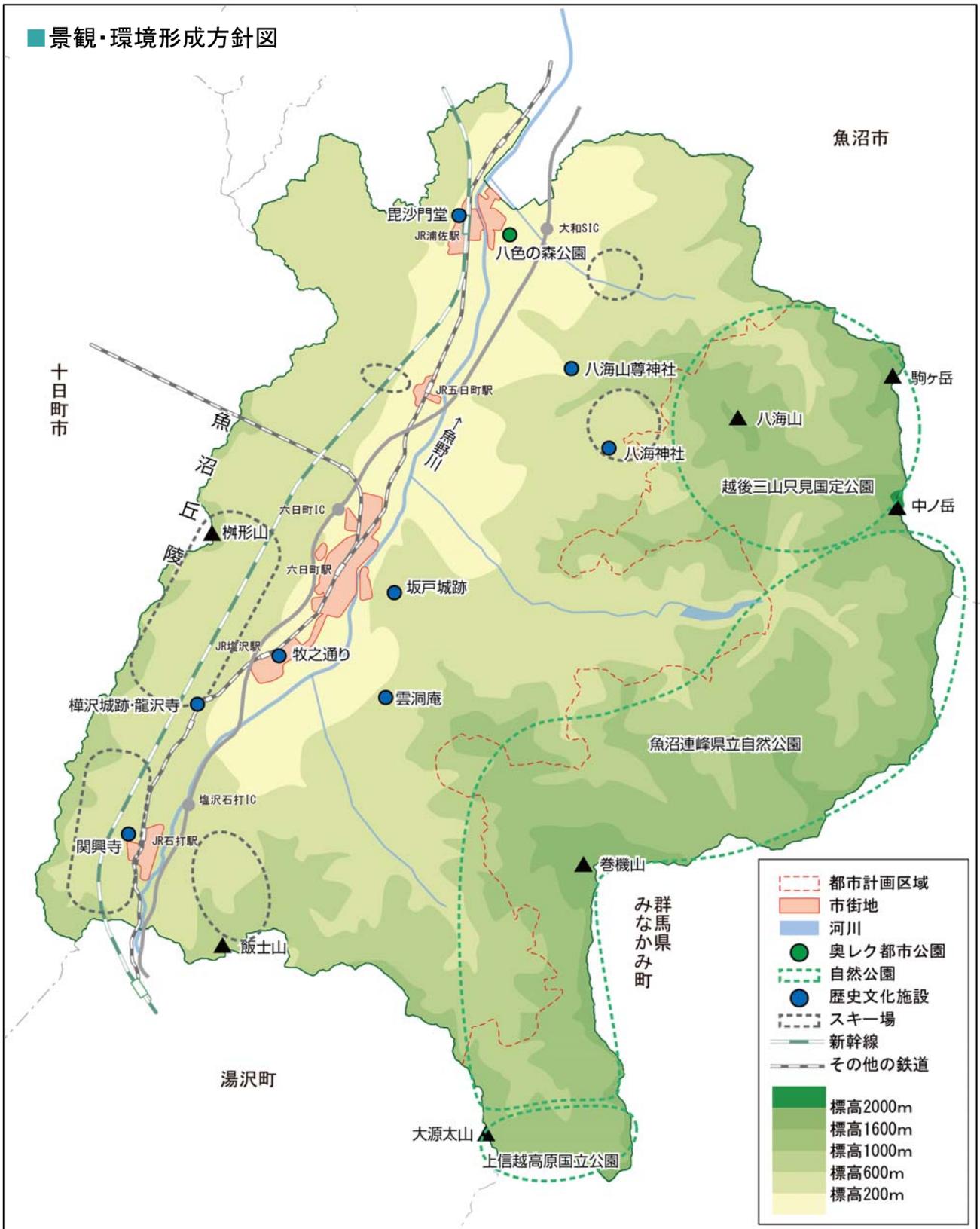


六日町バイパス脇の緑化

④地下水の保全と地盤沈下対策

- 大切な地下水資源を守るため、除排雪に効果のある流雪溝の整備を図ります。
- 特に地盤沈下の著しい区域における雪対策については、将来にわたって良好な環境を持続させ、地盤環境の保全や公害を未然に防止する観点から、地下水に過度に依存した現状の見直しを検討します。

■ 景観・環境形成方針図



5. 都市防災の方針

近年では、地震を始め集中豪雨などによる大規模災害が全国各地で頻発しており、本市でも平成16年の新潟県中越地震や平成23年新潟福島豪雨災害では甚大な被害をもたらしました。これらの教訓を活かし、災害時の安全性の向上を図り、災害に強いまちを目指します。

(1) 地震・火災対策

- 災害時の避難所となる公共施設の耐震化など、防災性の向上を図ります。
- 一般木造住宅等の密集する地区では、建物の耐震化などにより、防災性の向上を図ります。また、空地や公園などを活用し、緊急時に避難場所として利用できるオープンスペースの確保を図ります。
- 都市計画道路網等との整合を考えて、幹線道路及び補助幹線道路などで避難経路を構成するよう、防災道路ネットワークの形成を図ります。
- 災害発生時の交通ネットワークを維持するため、幹線道路や橋梁の耐震性向上を働きかけます。
- 公営住宅等の耐震性などの諸機能を強化し、建替えや改築を含めた効果的かつ効率的な対応を図ります。

(2) 雪害・土砂災害対策

- 冬季の降雪による災害を防止するため、消融雪施設や雪崩防止施設などの道路防災施設の整備を推進します。
- 冬季においても緊急車両が安全に走行し、救急・消防活動が円滑に行えるよう、狭隘道路などの除雪を推進します。
- 積雪時の歩行者の安全を確保するために、除雪活動を地域住民と協力して推進するとともに、消雪パイプや流雪溝などの消融雪施設の計画的な改修、整備と維持を図ります。
- 土砂災害のおそれのある地区については、新規の開発の抑制とともに、安全な地区への誘導を検討します。
- 積雪時における安全・快適な居住環境を確保するため、克雪住宅や宅地等の消融雪設備の整備を推進します。



除雪風景



流雪溝利用の様子

(3) 水害対策

- 六日町市街地や浦佐市街地においては、過去に大雨による浸水被害が発生した経緯を踏まえ、雨水排水対策を含めた総合的な水害対策を図ります。
- 洪水による浸水や湛水の被害を防止・軽減するため、河川改修や洪水予防施設の計画的な整備の早期完成を働きかけます。また、浸水のおそれのある区域内の宅地化は抑制を図ります。
- 河川の流下能力の向上に努めるとともに、保水、遊水機能を有する農地や山林などの開発は抑制します。



過去の市内の水害の様子

(4) 防災体制の構築

- 市民一人ひとりの防災意識の高揚、災害時の対応知識や避難場所の周知などを図ります。
- すべての市民が安全・安心に暮らすため、地域で互いに協力し防災・防犯力を高める体制を構築します。